

第177回福沢先生誕生記念会  
展示資料目録

— 2011年センター新収資料より —



黒田吉治(明治40年理財科卒)旧蔵写真より

(左)19世紀末を記念した集合写真(中央が黒田)

(右)完成したばかりの福沢諭吉墓の前にて(前列右が黒田)

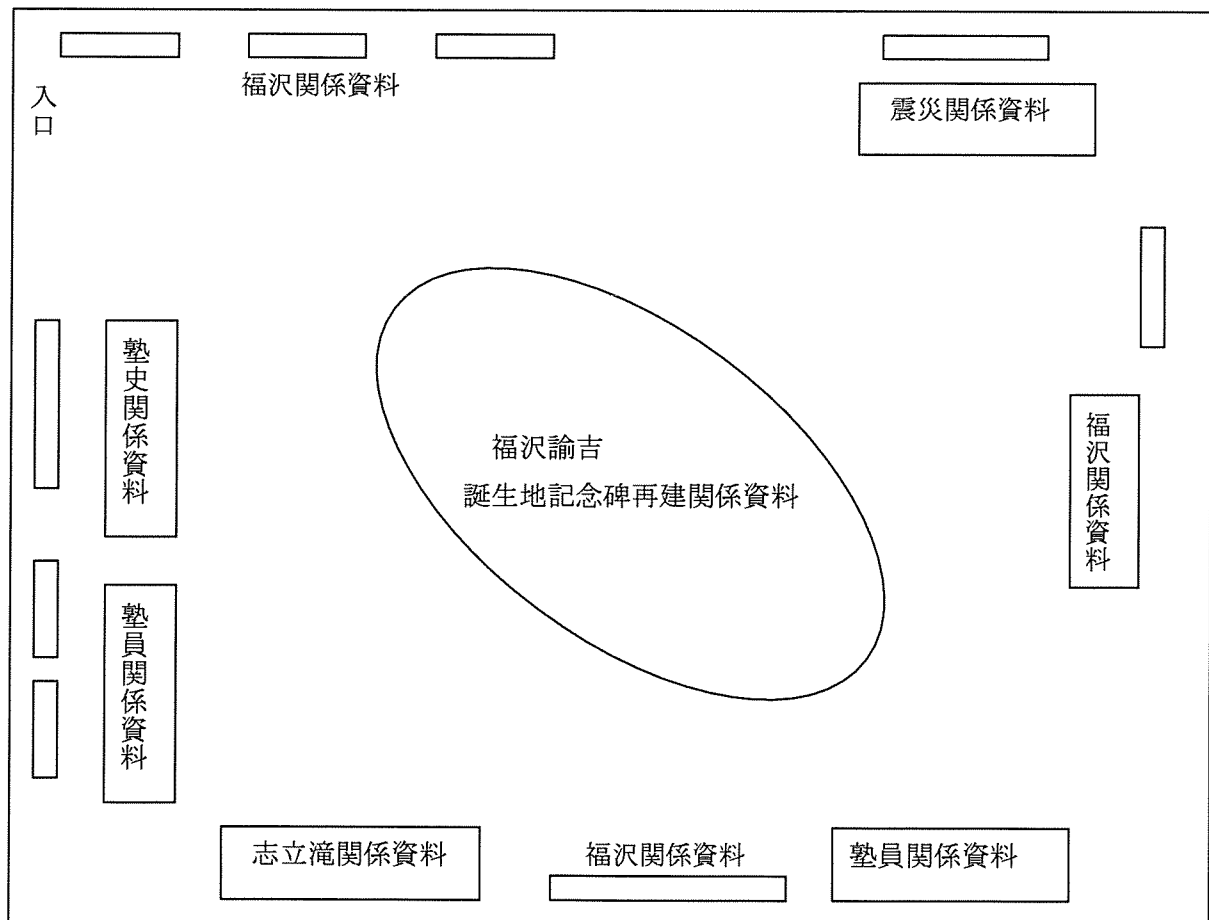
平成24(2012)年1月10日

於 図書館旧館 1階展示室

慶應義塾福沢研究センター

1	福沢諭吉関係資料	壁面	福沢諭吉 大久保一翁宛書簡 明治11(1878)年カ5月5日付	購入
2		壁面	福沢諭吉 五言絶句漢詩 黒雲吐明月 霖雨報晴天 天変与人事 由来不偶然	前田壽一氏寄贈
3		壁面	福沢諭吉 共楽健康 六十二翁 諭吉	服部禮次郎氏寄託
4	福沢諭吉関係資料	ケース	福沢諭吉『時事新報』原稿 「大地震ニ付義損〔金〕募集広告」 明治24(1891)年10月30日より掲載	里見寛氏寄贈
5		壁面	錦絵「巖手県宮城県青森県 大海嘯画報」 明治29(1896)年	服部禮次郎氏寄託
6	福沢諭吉関係資料	壁面	錦絵「梅幸百種之内 英人スペンサー風に乗る」 明治27(1894)年	購入
7		ケース	福沢諭吉 高木喜一郎宛書簡 明治25(1892)年2月29日付	吉村洪氏寄贈
8		ケース	福沢諭吉『時事新報』社説原稿「富豪の要用」 明治25年(1892)12月16～18日掲載	購入
9	塾員関係資料	ケース	小幡篤次郎・甚三郎『英文熟語集』 (吉田賢輔旧蔵本) 慶応4(1868)年3月刊	購入
10		ケース	馬場辰猪 「英国証拠法述義」原稿 明治13(1880)年頃	購入
11		ケース	馬場孤蝶 時事新報社宛受領書 大正12(1923)年4月11日付	購入
12	福沢諭吉関係資料	壁面	福沢諭吉 初代堀越角次郎君墓誌 明治19(1886)年4月	堀越毅一氏寄贈
13	志立滝関係資料	ケース	福沢諭吉 署名入りたらい(玩具) 明治13(1880)年9月購入	中上川マリ氏寄贈
14		ケース	志立滝 ミニチュアコレクション	中上川マリ氏寄贈
15	塾員関係資料	ケース	「一九世紀末日」記念写真 明治32(1899)年12月27日	黒田康敬氏寄贈
16		ケース	「レクチュア倶楽部」記念写真 明治35(1902)年10月18日	黒田康敬氏寄贈
17		ケース	福沢諭吉墓前での記念写真(上大崎常光寺) 明治35(1902)年4月	黒田康敬氏寄贈
18		ケース	高橋誠一郎 黒田吉次宛書簡 明治41(1908)年カ11月25日付	黒田康敬氏寄贈

19		ケース	黒田吉治 金銭出入帳 明治 32(1899)年 1月～35年 7月	黒田康敬氏寄贈
20		壁面	慶應義塾大学部卒業記念柔道部員集合写真 明治 40(1907)年	黒田康敬氏寄贈
21		壁面	詳細未詳集合写真 (普通部生カ) 明治 33(1901)年 3月 3日	黒田康敬氏寄贈
22	塾史関係資料	ケース	幸田成友「日欧通交史」講義 受講ノート 昭和 12(1937)年カ	山田多知見氏寄贈
23		ケース	幸田成友「江戸時代史」講義 受講ノート 昭和 12(1937)年カ	山田多知見氏寄贈
24		ケース	体育会端艇部関係アルバム 昭和 15(1940)～18年	石井勝子氏寄贈
25		壁面	体育会端艇部 旗 明治 40(1907)年頃	小山章吾氏寄贈
26	福沢諭吉関係資料	中央 テーブル	福沢諭吉誕生地記念碑再建関係資料 昭和 28(1953)～29年	森本勒弥氏寄贈



初代堀越角次郎君墓誌

堀越安平君ハ文化三年丙寅正月十五日、上野国碓氷郡藤塚村ニ生る。同村の農田島安兵衛の末男なり。少少より豪放、年十四、市ニ出て繭の仲買を試たれとも利なし。爾來地方の無頼ニ交り、任侠を以て郷邑ニ横行す。終ニ家を逐はれて江戸ニ来り、生計を求めとも顧る者なし。此間頗る甘酸を嘗め、時ニ或ハ公事師と為り、人の為ニ町奉行所ニ訴訟するの業を以て僅ニ錢を得れ共、固より君の志ニあらず。乃ち儼然商業に志し、古着小切の竹馬を肩にして江戸市中に徘徊せり。一日旧知人上州吉井の堀越文右衛門ニ江戸橋ニ邂逅し、橋上相語て共ニ大ニ悦び、夫れより文右の言ニ従ひ名を改めて堀越角次郎と称し、都下の本船町ニ反物の小店を開きたるハ三十八歳の時なり。爾來家道漸く盛にして、弘化元年通旅籠町ニ移り、呉服太物の問屋を業とせり。安政六年横浜開港のはしめ、佗ニ率先して舶來織物の引取を試たり。引取商の名此より始まる。此時ニ当り攘夷の論盛にして、貿易商人ハ往々浪士輩の毒手ニ罹る者さへ少なからざりしかども、君ハ独り屈する色なく、浪士の攘夷ハ実効なし。吾々商人こそ外国人と利を争ふ者なれハ真成の攘夷家なれなと、窃ニ嘲り笑ひ、又公然浪士に面会して利害を談する等、人皆其豪胆ニ服せざるハなし。攘夷の風波も漸く収り、外国貿〔易〕次第ニ繁昌するに従ひ、堀越の家も亦共ニ繁昌して、遠近到る處其名を知ざる者なし。明治十二年隱居して名を安平と改め、家政を息角次郎君ニ譲り、尚事を視ること六年、明治十八年夏胃病ニ罹り、同年八月二十五日晏然没す。行年八十。諡して弘昌院朴翁安平居士と云ふ。東京谷中墓地ニ葬る。君嘗て三子ニ語て云、吾少壯の時放蕩無頼、諸の危険試さるなと雖とも、一旦志を翻して商業ニ就くニ及てハ、唯人を欺かざるを以て護家の本尊と定めたりと。又云、官私を問はず他の資金ニ倚頼するハ危し、独立の商業こそ我子孫の為ニ望む所なれと。又云、高利の金を借用して商売を営むハ、他人の為ニ自から額ニ汗するに異ならずと。又云、吾投機相場の事を知らざるニあらず。昔年これを試て其勝負に喜憂を催したること甚た多しと雖とも、詰り相場なるものハ負けて不都合のみならず、勝たるときも亦不都合にして、其不都合の為ニ、遂ニ生涯この道を脱すること能はざるを常とす。是れ吾が断然思ひ止りたる由縁なりと。君素と文ニ習はずと雖とも、其言ハ則斯の如し。嗚呼、君の如きハ商売活世界の龜鑑として仰く可き者ならん。

明治十九年四月某日

福沢諭吉誌 印

\* 堀越角次郎は上州出身の豪商。洋学者と交流があり、福沢は貯蓄金を預け、大変信頼を寄せていた。福沢による墓誌は、『福沢諭吉全集』第一九卷(岩波書店 昭和四六年)に収録されているが、今回寄贈を受けた資料はかなり文章が異なる。傍線部分が『福沢諭吉全集』と異なる部分である。